

おおき



議会だより

No. 157

令和6年度

2月発行

新年の抱負 P2

一般質問 P6～9



今月の表紙

「元気の秘訣？」新年の初湯を目指して（関連記事 P10 これでいいのか？アクアス問題）

大木町の議員定数に結論を！

現在、大木町議会議員選挙においては、2期連続の無投票で推移しており、議員のなり手不足に対する有効な対策が見出せていません。このことは町民の皆様の身近な政治への関心を失わせ、“まち”への愛着や、まちづくりに対する情熱や行動力を喪失し、同時に議会議員の緊張感を無くす結果となっているように感じます。

現状議員へのなり手を早急に確保できない以上、定数を見直し、時代に見合った合議制の機関を形成することは急務であると考えます。議員の在り方も含めて検討を進め、全員で未来に向けた結論を出していきます。



議会運営委員長

なかしま かずまさ
中島 和正

町民からの信頼回復に努める！

大木町議会にとって去年は試練の年でした。現職の議員が酒気帯び運転により検挙される事案が発生し、議員のリコール運動に発展しました。現在も進行中です。

今後は二度とこの様なことが起こらぬよう全議員が再発防止はもとより、改めて綱紀粛正に努めなければならないと考えます。

「雨降って地固まる」ということわざがあります。今年こそ初心に戻り、信頼回復に努め、町民の負託に対し応えるために、日々の研鑽が肝要で、その意識を瞬時たりとも忘れてはならないと思います。全議員一丸となって頑張ります。



大木町議会議長

こが ともふみ
古賀 知文

令和7年決意表明

委員会活動の見える化を！

前年に続き、本町の基幹産業である「農業」を中心に活動を行います。特に今年は、長野県へ視察研修を計画しています。

①JA信州諏訪は、2016年多様な担い手への支援や農機購入にかかる費用の負担軽減を目的に「農機レンタル事業」を行っています。

②阿南町のふるさと納税（農業支援）では、町が直接米を生産者から有利な価格で買い取ることで、生産者の取得が増加し、生産意欲の向上に繋がっています。

是非、本町の参考になり、実行できるよう視察したいと思います。また、昨年実施できなかった企業や団体とも積極的に意見交換会を行い、活発な活動を行います。

総務建設産業常任委員長

こが やすこ
古賀 靖子



活発な委員会活動を目指して！

文教厚生常任委員会は、文化・教育・健康・福祉・環境分野を所管する委員会です。議会基本条例第4条には「町民の多様な意見を的確に把握するために、各種団体との意見交換を行い、課題を調査研究し委員間の討議に反映させ、政策提言等を積極的に行う。また、先進地視察・研修を重ね町政運営に反映できるよう努める」と明記してあります。

去年は活動計画に掲げた意見交換会や、視察研修等が思うように開催できませんでした。今年は確実に意見交換会や視察を実施し、政策提言へ繋がります。また、所管課への監視も強化し、よりよい町政運営に努めます。

文教厚生常任委員長

とくなが たくや
徳永 卓也



10月18日(金)に行われた第6回臨時会では、3つの議案を審議しました。町長と副町長の給与を減給する条例案を解説します。

PICK UP!!

町長・副町長の給与
10%カット(1カ月分)

町職員が起こした不適切な事務処理に対しては、減給や戒告の懲戒処分が行われました。町長は今回の事案を重く受け止め、業務怠慢を起こした職員の任命責任をとるために、町長・副町長の給与を10%カット(1カ月分)する条例案が提出され、賛成多数で原案を可決しました。

不適切な事務処理

障害者相談支援事業について、本来4月に行う契約や、6月に行う支払い手続きを怠り、事務処理を放置していた。

討 論

信用失墜行為に対する「はじめ」をつける姿勢を評価したい

反省を活かした今後の町政に期待を込めたい

賛成6

契約先の損害状況が明確になっておらず時期尚早では?

特別職まで減給する必要はない

反対5

第7回
臨時会

11月28日(木)に行われた第7回臨時会では、木佐木小学校体育館の契約内容変更について提案され、賛成多数で可決しました。

PICK UP!!

木佐木小学校体育館の
整備状況は?

9月22日に発生した災害級の大雨の影響で、大規模改修工事中の体育館の壁と床が損傷する被害が起きました。一時的に降った大雨が原因で、壁の一部改修と床の張り替え工事が追加で必要となり、契約議決の変更について審議しました。

契 約内容の変更点

	変更前	変更後	比 較
契約金額	1億3964万円	1億7147万円	3182万円 増
工 期	R7.1.31	R7.3.24	約2ヵ月 遅

議員の質問／町の回答

- Q 施工業者は企業努力で、発注以上の防水対策を行っている。顧問弁護士に状況を相談した上で、過失がないと判断する。
- A 施工業者は企業努力で、発注以上の防水対策を行っている。顧問弁護士に状況を相談した上で、過失がないと判断する。
- Q 保険適用されない場合の費用は?
- A 全額町負担
- Q 保険適用の結果次第で判断しては?
- A 完成が遅れることで様々な問題が生じるため、工事を止めることなく進めたい。
- Q 施工業者に過失はないか?
- A 施工業者は企業努力で、発注以上の防水対策を行っている。顧問弁護士に状況を相談した上で、過失がないと判断する。

後日、**保険適用**が決定!

臨時会後、施工業者が加入している保険が適用されることが決まり、町の負担なしで整備工事が行われることになりました。



文教
厚生

大木町学童保育所の指定管理者について

プロポーザル選定結果

おおき・ほっとかん



テノ.コーポレーション

指定管理者とは、公の施設の管理に民間の能力や創意工夫を取り入れることにより、サービスの向上と効率的な管理運営を行うことを目的とした制度です。令和7年4月より、テノ.コーポレーションが学童保育所の指定管理者となります。

大木町が目指す3つの安心

- ① 子どもたちの安心した笑顔があふれていること
- ② 子育てと仕事の両立を応援し、保護者が安心できること
- ③ 支援員など学童で働く皆さんが安心してやりがいをもって働けること

評価ポイント

- ・ICTによる入退管理システムの導入
- ・長期休暇期間中にお弁当をスマートフォンで注文できるサービスの導入
- ・支援員への研修計画
- ・社内外への職員相談窓口の設置
- ・安全管理体制のマニュアルの整備
- ・新しい保育メニューなどの提案
- ・他市町村での事業実績

委員会報告

審査内容の詳細書類を議会側に提示されないことへの不信感や、「選考委員は、保護者や支援員など現場目線の人選を考慮すべきだったのでは?」「学童の歴史や住民参加のまちづくりの視点が不足しているのでは?」など今回の選定結果に対して、反対する意見がありました。

一方、基本理念に沿うとともに、指定管理者が変わることによってこれまで築いてきた特色を引き継ぎ、3つの安心が守られることを期待するとの意見が多数を占めたため、原案を可決すべきと判断しました。

今後、委員会が責任を持って、健全な学童保育事業が行われているか注視していきます。

総務
建設
産業

大木町農産物加工販売施設の加工販売機能をWAKKAへ

農産物加工販売施設

農産物加工の開発や販売、加工技術取得等を目的として平成25年度に設置

委員会報告

大木町農産物加工販売施設(旧がんばん館)は、利用が少ないため、その機能をWAKKAへ集約する条例案が提出されました。審議の結果、町内には他にも類似施設があり、これらの施設を拾い出して活用方法を再検討するよう意見を加え、原案を可決すべきと判断しました。

期待される効果

Point **財政メリット**
01
・施設管理費の経費削減(年間約50~60万円)
・施設貸付けによる収入増

Point **事業の効率化**
02
・管理を一本化
・類似施設の有効活用



※農産物加工販売施設
アクアス横調理施設

町長から提出された議案を、それぞれ所管の常任委員会で詳しく審査しました。主な議案審査の内容をお知らせします。

般 問

循環事業の長期計画が必要では？



ますだ 益田 とみひろ 富啓 議員

答 ※ PDCA サイクルを回しながら 長期計画を示す



※ Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)

1 循環事業について

議員 バイオマスセンターの現在の受入状況は？

課長 家庭系生ごみは、人口減少や中食と言われる生ごみが出にくい食事スタイルの影響で減少傾向にある。浄化槽汚泥は、浄化槽普及による影響で増加、し尿は水洗化の影響で減少している。

議員 高齢化が進むと分別の徹底や集積所への持ち込みが困難になる。転入者への理解醸成やマンネリ化防止をどう進めるのか？

課長 高齡化が進むと分別の徹底や集積所への持ち込みが困難になる。転入者への理解醸成やマンネリ化防止をどう進めるのか？

議員 別の徹底や集積所への持ち込みが困難になる。転入者への理解醸成やマンネリ化防止をどう進めるのか？

課長 子どもたちへの環境学習に力を入れていく。今後も、高齡者対策を始め、様々な課題解決に向け努力していく。

議員 動画の積極的な活用が遅れているのでは？

町長 指摘事項について、長年取り組みがない状況である。現在、町内でカブトムシ事業に取り組んでいる地域おこし協力隊員の中には映像配信に長けた隊員もいる。彼らは、地域振興のお手伝いをしたいという気持ちを持っているので協力を求める。

2 学童保育について

議員 浄化槽汚泥の受入量が計画値を超えているが、プラント運転に支障はないか？

課長 指定管理者の運営努力により、プラントに支障がないよう安定的な処理を行っているが、今後も浄化槽普及で持込量は増えていくため、受入槽や貯留槽の増設は避けられない問題である。

議員 緊急時の対応について、包括連携協定を締結しているみやま市と具体的な持ち込み方法等の協議は進められているか？

議員 緊急時の対応について、包括連携協定を締結しているみやま市と具体的な持ち込み方法等の協議は進められているか？

課長 現時点では行っていない。みやま市を中心に他の自治体や民間施設と様々な情報交換を行い、緊急時の対応について確実に取り組んでいく。

議員 バイオマスセンターは築18年が経過し老朽化が進んでいる。長寿命化に向けた設備更新や新技術の導入、さらには将来に向けた2号機の検討など、財政面を含めた検討が必要では？

町長 PDCAサイクルを回していくことが大切で、長期的な計画を示さなければならぬと認識している。

議員 液肥米「環のかおり」の5キロ販売価格（町内先行予約）が昨年から約700円アップし2700円、しかも月1袋の制限をかけた理由は？

議員 液肥米「環のかおり」の5キロ販売価格（町内先行予約）が昨年から約700円アップし2700円、しかも月1袋の制限をかけた理由は？

課長 「環のめぐみ」は、元気つくしのめしまる君というブランド名で販売している関係で、「ふくれん」の管理下に置かれる。低価販売で購入が殺到することが予想されたので数量制限を行った。

議員 問題を抱えた子どもを含め、学童を希望する子どもは全て受入れる確認がとれているのか、また、地域社会との交流や連携は維持できるのか？

副町長 おおきつ子すこやかプランの基本理念や三つの安心（子ども、保護者、支援員）といった視点も踏まえて、厳正かつ慎重に審査した。

議員 問題を抱えた子どもを含め、学童を希望する子どもは全て受入れる確認がとれているのか、また、地域社会との交流や連携は維持できるのか？

副町長 基本的には今の運営を引き継ぐ形を想定しており、しっかり確認しながら協議を進めていく。

意見

意見 化学肥料の高騰は、これまでの慣行方法のもろさを露呈する形となった。輸入資材に頼らない新しい生産方法の確立が求められており、町内の有効な資材を使った新しい栽培システムの構築を研究してもらいたい。

意見 指定管理に委託したからといって、委託者の責任が消えるわけではないので、町が責任を持って対応していただくことを求める。



ふかまち 深町 としお 敏生 議員



図書・情報センターの運営と取組み状況は？

答

町民と共に大木町が目指す図書館像を形にしてきた

大木町図書・情報センターの運営、取組みについて

議員

大木町図書・情報センターは、平成22年に開館し、年間6万〜8万人が8万冊を愛読され、町民が集う場となっております。町民に愛されている要因はどこにあると分析されているか？

課長

15年目を迎えた同センターは、町民待望の図書館として、運営等町民の意見を取り入れ、「こっぴょこ応援ネットワーク」等と一緒に大木町が目指す図書館像を形にしてきた。また、町民の皆さんが図書館ボランティアとして、「こっぴょこおはなしの森」、「折り紙で遊ぼう」等に関わっている。更に、町民の希望を反映した本の「町民選書会」を行うなどの積み重ねが町民に愛されている要因ではないかと考える。



意見

施設運営を町民の皆さんと連携し、作り上げて行くことは、本町の他施設の運営にも参考になり、見習うところが多いと考える。

議員

毎年、本の購入と除籍が行われているが、除籍された本を毎年春と秋に町民に無料で配布されているが、町民に提供される前に何かもつと活用策の考えはないか？

課長

年2回「本と雑誌のくるくる市」を行い図書館で除籍する本をお譲りしているが、知らない人や利用する人が限られるなど、どのようなやり方が良いのか検討している。

議員

国の機関である文化庁が2023年度に「国語に関する世論調査」を実施し「あなたは現在、一カ月に何冊くらい本を読んでいますか」との問いに、「一冊も読まない」と回答した人が62%と公表しており、もつと本に触れる場づくりが必要と考える。例えば、

理髪店、病院等の待合を伴った場所や「ミセン」等に本棚を貸し出し除籍された本などを置いてもらい、見て、触れて、読まれる環境をつくる「大木町本いっぱい運動」を展開してはどうか？

課長

除籍された本の希望があれば、モデル事業としてどういう方法で進めるのか調査研究を行っていきたい。本棚については、管理運営面から設置される場所で準備していただきたい。

議員

本年3月から本町も含め「くるめ広域電子図書館」が4市2町で共同運用されており、本町民の利用状況及び町民へのさらなる周知方法は？

課長

本町の利用者数85人で全体の2.7%、利用書籍数はのべ276冊で全体の2.2%となっている。町民への周知は進行するDX化への対応とバリアフリーの仕組みとしても便利なサービスなので、まずは図書館利用者に周知し、未利用者へも周知普及していきたい。

小排水路の整備及び堀の町おおきにふさわしい条例について

議員

昨年12月に質問した小排水路の整備及び堀の町おおきにふさわしい条例について、町が昨年回答された調査研究及び確認の一年間の結果、及びお考えは？

課長

町内の多くの小排水路が土水路のまま、法面の崩壊が著しく早期に何らかの対策を講じていかなければならぬと感じている。また、関係機関と協議し、小排水路を整備する事業がある旨の回答があり、この事業に着手することにより法面補強の加速化を図る考えである。堀の定義づけも併せて、整理された維持管理条例の制定を視野に入れ、関係各課と協議し、引き続き調査研究する考えである。

般

問

「ふるさと納税 3.0」を取り入れては？

答

意見を踏まえ検討していく



益田 隆一 議員
まさだ りゅういち



「ふるさと納税3.0」について

議員

今年度の9億円のふるさと納税はどういった事業にいくら使うのか？

課長

収入金額が7億5000万円余り、そこからサイト利用料や返礼品等の必要経費4億2000万円弱、これらを差し引いた額がおおよそのふるさと納税基金への積立額であり、次年度において基金から繰入れ、一般会計の各事業に財源として充当している。

議員

ふるさと納税を増やしていくにつれて、返礼品目的ではなく、町が寄附金の使い方を充実させる必要があり、商品化プラス、ちゃんとしたストーリーがあつて、寄付したお金がこつこつたものを使用されていると、感動を与える形が望ましいのでは？

課長

本町から魅力的な、提案を現状しきれていないということについては課題として認識している。令和4、5年度については、寄附者にとって、どういった事業に役立ててほしいかなど、そういうものを選択できない状況にあった。そこで令和6年度からは寄附者がどの政策分野へ自身の寄附を役立ててもらふ、こういうものを選べるような形へと、改めている。

議員

ある意味、予算として計上するっていうことをプラスに考えようと、数値目標として、捉えることもできる。泉佐野市が行っている。(ふるさと納税3.0)これは「さのちよく」というポータルサイトを經由し、クラウドファンディングのような制度で寄付金を募っている仕組みが素晴らしく、大木町に取り入れてはどうか？

町長

ふるさと納税とクラウドファンディングを掛け合わせたような制度で、全国的に流行ってきているものと承知している。先日サイト関係者と協議する場があり、①ふるさと納税はストーリー性が重要であること②もし3.0を導入するのであれば、まず参入する事業者が本気で事業展開を行う意思があることが大切である旨アドバイスを受けたところである。今後、先進事例を参考に研究しながら、引き続き、ふるさと納税の獲得に全力で取り組んでいきたい。



意見

ふるさと納税の捉え方を今一度、見直し、ただ数字だけを追い求め、赤字補填に充てるだけという安易な考えではなく、本当に大木町にふるさと納税という財源が必要であり、しっかりと活用して、このストーリーが必要不可欠であると考え。この基礎工事が整って初めて新しいステージへと移行できると思う。

ふるさと納税3.0について

寄附者の皆さんの応援によるクラウドファンディングを活用し、返礼品を提供する企業や個人事業主を支援することで、魅力的な地場産品を充実させ、寄附者の皆さんに返礼品として届ける新しいふるさと納税の仕組み。



詳しくはこちら！

質

1 高齢者の移動支援の取組みについて

議員 本年、3月定例会において一般質問を行ったが、現在の買物支援及び移動支援の取組みの進捗状況は？

課長 町の高齢者移動支援の取組では、特に日常生活の移動手段にお困りの方の生活支援として、買物関係の移動支援策を開始している。

その他高齢者への支援については、医療機関や金融機関、公的機関などへの送迎希望、特に日常生活に欠かせない通院移動支援の希望が多いため、通院等の移動支援策の検討を進めている。

今後は、高齢者宅から町内目的地まで送迎するドアツードアに限定し、その担い手として、輸送サービスのプロであるタクシー事業者等を活用した移動支援を試験的に実施する予定である。

議員

この取組は何年度から実施されるのか、予算についても見込んであるのか、またこれからの地域公共交通として現在どのようにに検討・協議を進められているのか？

課長

新たな移動支援策として、現段階で協力の意向を示す事業所もあるため、できるだけ早期に取り組みたい。新年度の実施に向け、詳細な協議を重ねていく予定である。(福祉課)

課長

3月定例会で答弁したコミュニケーションバスや自家用有償旅客運送は既に確認済み。校区コミュニティーなど、地域において回答したい旨の声があがるようであれば、相談から受けていきたい。

地域公共交通政策として、デマンド型の乗り合いタクシーの議論を進めている。まずは県からの事業許可を得ることが大前提であるが、許可を得次第スムーズに動けるよう、スケジューリングの検討や許可へ向けての監督官庁、タクシー事業者との協議など進めている。

る。事業の実施にあたっては、調査研究の上、国県の補助金を最大限に活用したい。(企画財政課)

意見

当町での新たな移動支援が、さらにきめ細かに動き始めたようで心強く感じた。課題はあるものの、生活する上で移動に困っている人に今後とも有効な施策を進めてもらいたい。



2

水田活用への対応について

議員 水田活用の直接支払い交付金の見直しによる本町への影響は？また、水張を行なうための新たなポンプや発電機の導入等の補助制度、泥土が堆積した水の入りにくい水路の泥土揚げ等、町として適切な対応策は？

課長 令和5年度交付対象となる麦大豆を作付した面積は、約59ヘクタールと推測している。仮にその全ての農地が水張できず、交付金の対象外となった場合、大豆は約2000万円の減収となる。地区外でも、既にポンプ等で水張を実施しており、正確に現状を把握できていない。

パイプラインが未整備の農地は、ポンプ等の設置が必要となるため、令和7年度の新規事業として、農家の要望に応じて農機具取扱店等と提携し、レンタル料の一部を助成する制度を計画している。

高齢者の移動支援策の進捗状況は？

答

ドアツードアに限定した移動支援策を検討中



たなか 田中 かずしげ 一成 議員



意見交換

議会意見交換会は、町民や各種団体と議会が行政課題などについて意見を交換し、その結果を議会活動に反映させることを目的としています。

健康増進拠点施設の在り方検討町民委員



文教厚生常任委員

1/16

一昨年に提出された「答申書」を具体化する目的で委員会が組織され、昨年10月に報告書がまとめられています。しかし、「町民が主体となった議論が行われていない」「結論が急すぎるのではないか」との議員の意見がありましたので、町民委員の皆さん5人と意見交換を行いました。

「建て替えありきで話が進んだが、本当に解体しないといけないのか」「解体する根拠が不十分」「健康増進施設ならリハビリ用のプールは必須」「優先する施設を総合的に判断するべき」など提出された意見を踏まえると、この問題はまだまだ町民レベルでの議論を重ねるべきと強く感じました。

これでいいのか？アクアス問題



明るい選挙推進協議会委員



議会運営委員

選挙や政治を身近なものに!



1/21

投票率の低さや議員のなり手不足など、政治への関心が低下している現状をどのように克服していったらいいのか。

明るい選挙推進協議会委員の皆さんとの意見交換会では、「選挙が自分たちの生活に直結していると感じない人が多いのでは」「自分たちの意見を政治に反映させる方法を知らない」「小さいときの主権者教育が重要」「子どもから親へのアプローチが大切」など、活発な意見が出されました。全国には「少年議会（山形県遊佐町）」や「こども選挙（神奈川県茅ヶ崎市）」など、小さいころから選挙や政治に関わる仕組みを設けて効果を上げている自治体があります。効果的な取り組みをさらに調査し、議論を深めていく必要があると感じました。

※ 大木バイオクリエーションズ視察

※秋田県にある「株式会社 TOMUSHI」の子会社で町と連携協定を結んでいる

11/27

この会社は、大木町特産のキノコ栽培で出る廃菌物（毎年1万t以上の廃菌床が発生）の廃菌床を活用したカブトムシを育て、販売やカブトムシの幼虫を粉末に加工した魚粉に代わる餌を作る取組みをしています。

蛭池地区の養豚場跡地にある幼虫養殖場の幼虫を見学後、筑後市にある外国産カブトムシ管理場の視察を行いました。現在、廃菌床の再利用量は50tで、来年度は100tを検討しているということでしたが、幼虫養殖場とカブトムシ管理場の用地が大木町になく、益々分散してしまうということでした。

廃菌床の再利用量を増やすようになれば、用地の確保が大きな課題となっていきます。意見交換で、大木町の「環境のまちづくり」「食と農の循環」「ふるさと納税」などに貢献していきたい思いが伝わり、委員会としても今後一緒に考えていきたいです。



養豚場跡地幼虫育成場（蛭池）



外国産カブトムシ育成場（筑後市）

大木町議会議員

大刀洗町議会視察

先進地に学べ!議会の在り方!

1/29

大刀洗町議会に訪問させていただき、議会運営の基本となる採決に至るまでの取り組みや、一般質問の進め方、住民の参加による議会モニター制度の採用、政策サイクルを機能的に回す工夫など多岐にわたる意見交換を実施しました。

意見交換を踏まえ本町議会における課題も浮き彫りになり、議会活性化への取り組みをさらに深化させる重要性を感じ、全議員が心をひとつにして議会基本条例の理念を具現化する契機となりました。

住民の皆さんから、さらに信頼される議会を目指し、議員一人ひとりが研鑽を深め、一致協力して行動していきます。



もっと / 身近な 議会 を目指して

1 「議会だより」リニューアル

手に取ってもらえるように、「見やすい!分りやすい!」紙面を目指します。

2 本会議のインターネット配信

本会議のライブ・録画配信に向けて、議会の「見える化」を目指します。



モニター4台設置



カメラ3台設置

議会広報特別委員会の抱負

本年、議場システムのリニューアルにより本会議のライブ・録画中継の配信が6月の定例会から可能になり、議場へ出向くことなく、質問に対する熱意を直接伝えられるようになります。

また議会の様子を視聴できる機会が増えることで、「開かれた議会」の実現に向けた議会広報活動の強化を図ります。



議会報発行特別委員長

やまだ たかひろ
山田 貴大

編集後記

「さるこいフェスタを盛りあげ隊!」議員の有志が集まり、初めてさるこいフェスタに出店しました。大木町の特産品であるえのきもぎとり体験、地元味噌蔵麴園の味噌を使ったえのきの味噌汁、おいしいもち米を使ったおこわを振る舞いました。あいにくの雨となりましたが、各地域の温かいおもてなしを受けた参加者の皆さんの素敵な笑顔がとても印象的でした。今回の出店を通して、さるこいフェスタの魅力を改めて実感し、今後応援していきたいと感じました。(田中 一成)

ルリー口福岡の選手が遊びに来てくれたよ!



編集後記

次回定例会

3月3日(月)~19日(水)

一般質問

3月18日(火)

お問い合わせ先

議会事務局
☎0944-32-1249



令和7年1月3日(金)朝、建て替え議論が出ているアクアスが気になり訪ねてみると、タオルをぶら下げたお客さんたちが次々にアクアスの中へ。ゆったりと湯船につかり「初湯」を楽しんだ皆さんは、一年分の英気を養われたことでしょう。アクアスはオープン以来26年。これからも愛され続けるアクアスでありますように!(益田 富啓)

議会報発行
特別委員会

委員長 山田貴大 委員 田中一成・深町敏生
副委員長 古賀靖子 益田富啓・徳永卓也